

趣旨

令和8年度の学校経営方針に示された重点教育目標である「**しなやかに考え続ける子どもの育成**」の実現及び今後の児童数の減少に伴う効果的な実践に向け、教師が**学年を横断した授業実践**ができる特色あるカリキュラムを編成する。

取組①（教師の専門性を発揮）

教科

「教科指導カリキュラム」

- ・子どもの集団（学級）は維持しつつ、教師が自らの専門性を発揮し、他学年の教科指導を実施する。
- ・教科担任制のような年間を通した取組や一部の領域や単元、単位時間を担当する取組を行う。
- ・学年ブロックのみならず、複数学年の指導に当たり、子どもに系統的な学びを補償する。

取組②（縦割り班を有効活用）

特活

「異学年交流カリキュラム」

- ・子どもの集団（学級）を解体し、新たな関係の中で自らの役割を意識させながら特別活動に取り組む。
- ・現行の縦割り班活動を活用し、児童会活動や学校行事を活性化させる。
- ・異学年合同の学習形態を生かし、学級とは違った所属意識や仲間意識を醸成することができるよう、様々な取組を進める。

期待される効果と検証方法

【効果①】多くの教員が自分の良さを認めてくれる環境により、児童の自己肯定感が向上する。

（検証方法）

- ・「自分のよさを認めてくれる先生が複数いる。」と回答する**児童の割合を80%以上**にする。
- ・「自分の気持ちを先生やお家の人に伝えることができた。」と回答する**児童の割合を80%以上**にする。
- ・「子どもたちが、異なる学年の児童や先生とかわかっていることができるよう、カリキュラムマネジメントを働かせた。」と回答する**教師の割合を100%**にする。

【効果②】異なる学年や個性の集団で活動するという環境により、相手意識が向上する。

（検証方法）

- ・高学年児童における「下級生の手助けやアドバイスができた」と回答する**児童の割合を80%以上**にする。
- ・低学年児童における「集団の中で自分の役割を考えて活動できた」と回答する**児童の割合を80%以上**にする。
- ・「様々な学年の子どもたちと積極的にかかわり、そのよさを認めた。」と回答する**教師の割合を100%**にする。